

伝え合う力をはぐくむ指導の在り方

鳥栖市立若葉小学校 教諭 松尾 美値余
有田町立西有田中学校 教諭 武藤 喜美子

伊万里市立東山代小学校 教諭 佐志 健

1 グループ研究の趣旨

21世紀を迎えた今日、少子化、核家族化や情報化、価値観の多様化が進む社会の現状の中で、人間関係が希薄になり、教育現場でもいじめや不登校などの様々な問題が生じている。

文部科学省が平成15年に行った「学校教育に関する意識調査」では、「学校生活で身に付けてほしいこと」として、84.4%の教師、84.2%の保護者が「友達を作ったり自分の周りの人々などと仲良く付き合ったりするなど社会の一員として必要な幅広い能力」と答えている。これは、教師、保護者共に、子どもたちに人とのつながりを豊かにする力を身に付けてほしいと願っていることの表れであると言える。

本グループでは、人とのつながりを豊かにするには、それを支える「伝え合う力」を育てていくことが必要であると考えた。ここでの「伝え合う力」とは、「他者を受け入れ、自己を見つめる力」ととらえる。この力は、人と実際にかかわること、つまり、互いに考えを聞き合ったり認め合ったりすることによってはぐくまれていくと考える。そのためには、人とかかわることのよさを感じさせることにより、更にたくさんの人とかかわってみようという意欲を高め、人とのつながりを広げ深めていくための指導方法の工夫・改善が必要であると考えた。

以上のような考えから、本グループでは、伝え合う力をはぐくむための指導の在り方について研究を進めていくことにした。

2 研究の内容と方法

(1) 内容

「伝え合う力」をはぐくむためには、実際に人とかかわる中で、かかわるよさを感じさせることが必要であると考え、そこに重点を置いた指導の在り方を各研究領域で探っていった。

(2) 方法

小学校総合的な学習の時間（英語活動）では、児童が、人とのかかわりに楽しさを感じ、自信をもち、また、人に対する様々な気付きをもつことができるように、タスクベースの活動や人の思いや考えに触れることができるような活動に取り組んだ。

小学校道徳では、教師と児童又は児童相互のかかわりにおいて、自分の思いや考えを表すことのよさを味わうことができるように、TTによる指導や少人数による意見交換の活動に取り組んだ。

中学校道徳では、自己の考えを見つめ直すことのできるように、多様な考えが出し合える資料を用いて、理由付けを必要とする発問を行い、話し合う形態の工夫に取り組んだ。

《参考文献》

- ・ 七條 正典 「“伝え合う力”と豊かな人間関係」『中等教育資料』 平成17年12月号
ぎょうせい
- ・ 文部科学省 初等中等教育における当面の教育課程及び指導の充実・改善についての答申
一関連図表 平成15年10月7日